「安心で快適な生活環境の創造」をKAWADAの技術で実現する

川田テクノロジーズ株式会社(3443)
2027年3月期 中間期
決算説明会

2026年11月27日 10:30～

KAWADA

本日の内容

1. 2027年3月期中間期の業績
2. セグメント別2027年3月期中間期の業績および期末業績の見込み
3. 株主還元の見込み

1．2027年3月期中間期の業績

2027年3月期中間期 収益の状況

鉄構・土木セグで工場操業や手持工事の進捗伸びず、売上高前期比微減。設計変更獲得や大型工事の原価低減実現で採算性改善。為替要因等で持分法投資損益も上振れ。前期比で大幅増益。売上見込は下方修正だが利益面は順調な進捗

（単位：百万円）

	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期		2027年3月期 中間期		増減 (26中-27中)
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	
売上高	66,430	100.0%	55,346	100.0%	**54,946**	**100.0%**	-399 -0.7%
売上総利益	10,581	15.9%	9,328	16.9%	**11,676**	**21.3%**	+2,347 +25.2%
営業利益	4,801	7.2%	3,172	5.7%	**5,231**	**9.5%**	+2,059 +64.9%
経常利益	6,443	9.7%	3,958	7.2%	**6,776**	**12.3%**	+2,818 +71.2%
親会社株主に帰属する中間純利益	5,017	7.6%	3,142	5.7%	**5,055**	**9.2%**	+1,913 +60.9%
1株当たり中間純利益(円) ※	96.94	-	60.18	-	**98.67**	-	+38.49 +64.0%

※2024/4/1株式分割および2026/4/1付株式分割が表示期間期首にあったものとして算定しています

2027年3月期中間期 受注の状況

鉄構セグの鋼橋事業および土木セグの発注が低調で熾烈な競争環境が継続。鋼橋は苦戦も、土木は随意契約で大型床版取替工事を受注。建築セグは好調で大型物件を継続的に受注し前年同期比で大幅増。ソリューションも新規開発・システム開発物件受注で、全体としては前年同期を上回る受注額を獲得。繰越高非常に高い水準

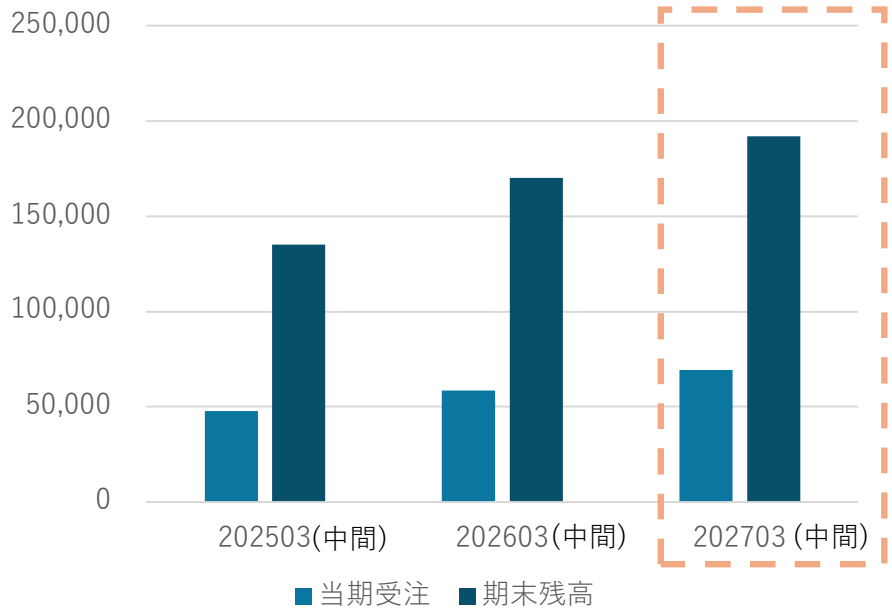
（単位：百万円）

	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	**2027年3月期 中間期**	増減 (26中-27中)
期首残高	154,730	167,917	**178,306**	+10,389 +6.2%
当期受注	47,710	58,362	**69,337**	+10,974 +18.8%
売上高	67,369	56,682	**55,829**	-853 -1.5%
期末残高	135,071	169,597	**191,814**	+22,217 +13.1%

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

【当期受注・期末残高の推移】

（単位：百万円）



2027年3月期中間期 BS・収益率指標、工事損失引当金、CFの状況

自己資本比率の改善続く。中間時点の利益増を受けROE、ROAも上昇。営業債権の回収進み営業CFは増加だが
自己株式取得を受け財務ＣＦは減少。工事損失引当金は鉄構セグで設計変更獲得などが寄与し前年度末から減少

【BS関連指標】 （単位：百万円）

	2025年3月期末	2026年3月期末	**2027年3月期中間**	増減(26-27中)
総資産	165,511	162,986	**156,551**	-6,435 -3.9%
純資産	91,569	99,510	**100,632**	+1,122 +1.1%
自己資本比率	55.0%	60.7%	**63.9%**	+3.2pp

【収益率指標】

	2025年3月期中間	2026年3月期中間	**2027年3月期中間**	増減(26中-27中)
ROE ※	6.00%	3.42%	**5.08%**	+1.66pp
ROA ※	3.98%	2.41%	**4.24%**	+1.83pp

※ROEの分子は親会社中間純利益、ROAの分子は経常利益によります

【工事損失引当金】 （単位：百万円）

	2025年3月期末	2026年3月期末	**2027年3月期中間**	増減(26-27中)
BS計上値	2,908	3,805	**3,104**	-701 -18.4%
うち、鉄構セグ	1,839	2,678	**1,917**	-761 -28.4%
うち、土木セグ	1,068	1,126	**1,182**	+56 +5.0%

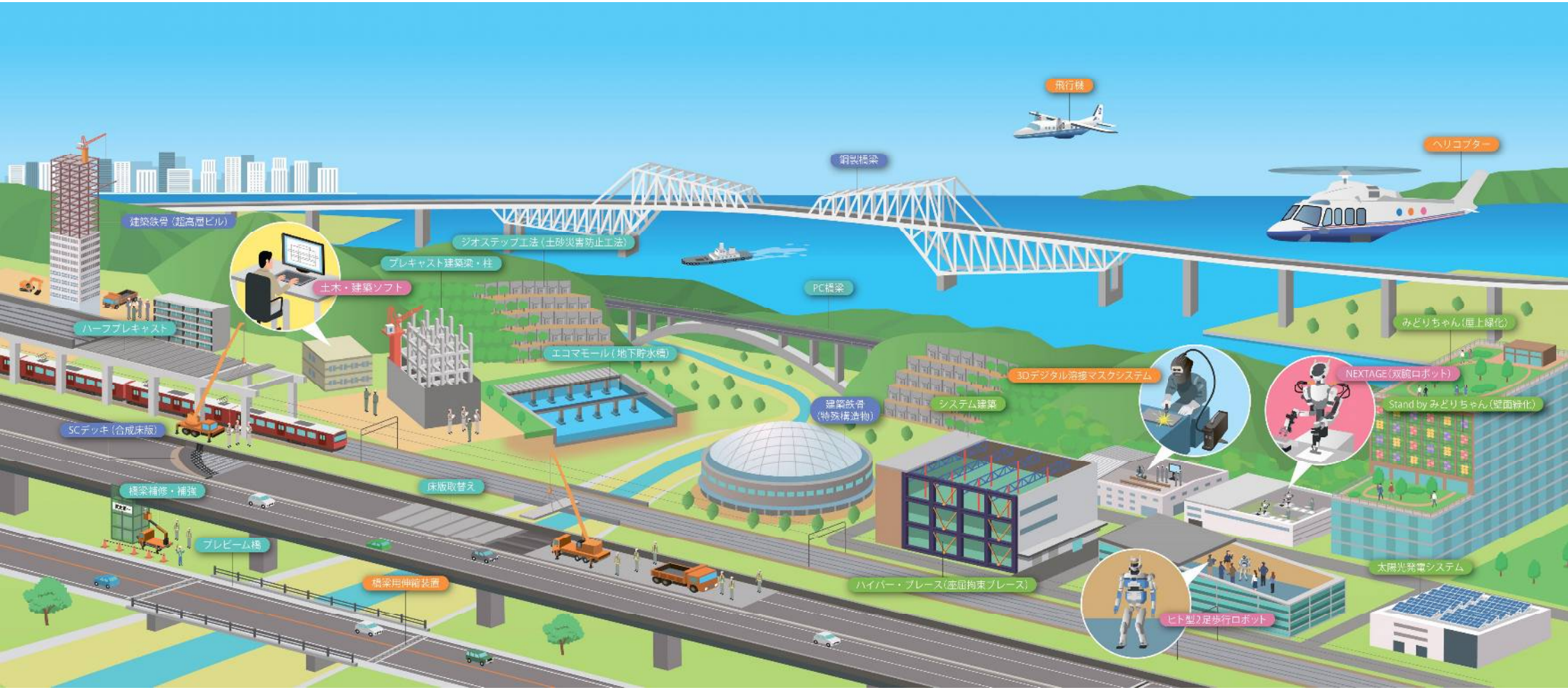
【キャッシュフロー】 （単位：百万円）

	2025年3月期中間	2026年3月期中間	**2027年3月期中間**	増減(26中-27中)
営 業	-5,038	4,061	**8,028**	+3,967
投 資	-1,197	-39	**-1,491**	-1,452
財 務	4,781	489	**-4,285**	-4,973

2. セグメント別2027年3月期中間期の業績および期末業績の見込み

４つの報告セグメント

鉄構セグメント　**土木**セグメント　**建築**セグメント　**ソリューション**セグメント



2027年3月期【中間期】①鉄構セグメント

鋼製橋梁： 発注状況低調で受注競争が熾烈。受注高は前年同期を下回る。製作工場の余剰生産力を活用すべく造船向けクレーンの躯体部分など新たな製作物の開拓に積極的にチャレンジも、長工期の物件も多く抱え当期売上高は伸びず。設計変更獲得や一部大型工事の原価低減などに加え、過年度に総原価が見積もれなかった物件に当期から工事進行基準を適用したことなどで、利益率は前期比増加

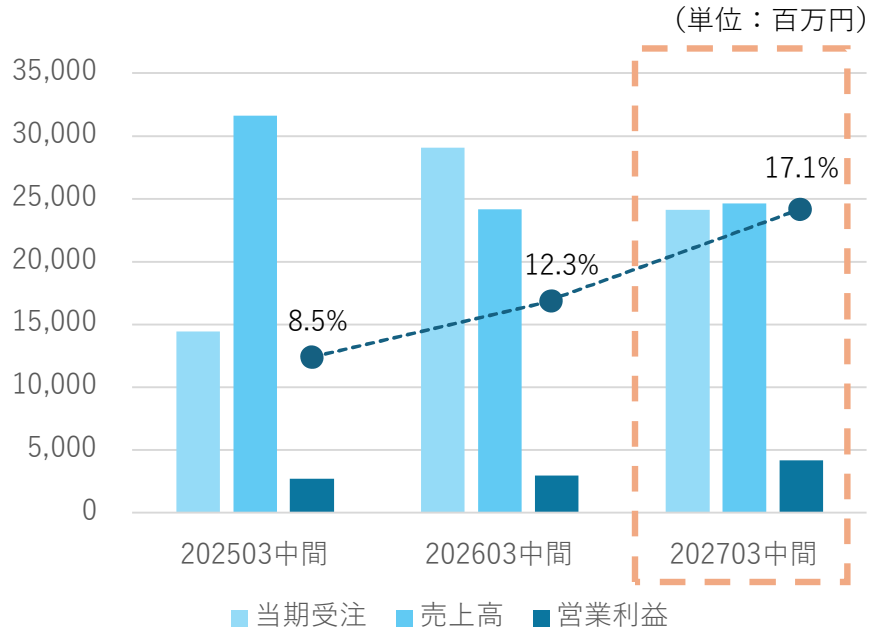
建築鉄骨： 首都圏再開発や大阪IR物件を積み上げた。手持工事も順調に進捗し売上・利益ともに前期を上回る

（単位：百万円）

	202503 中間	202603 中間	**202703 中間**	増減 (26中-27中)
期首受注残	87,561	95,372	**104,794**	+9,422 +9.9%
当期受注	14,443	29,070	**24,112**	-4,957 -17.1%
期末受注残	70,408	100,285	**104,298**	+4,013 +4.0%
売上高	31,597	24,158	**24,609**	+451 +1.9%
営業利益	2,695	2,975	**4,207**	+1,231 +41.4%
営業利益率	8.5%	12.3%	**17.1%**	+4.8pp

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

（単位：百万円）



2027年3月期【期末見込】①鉄構セグメント

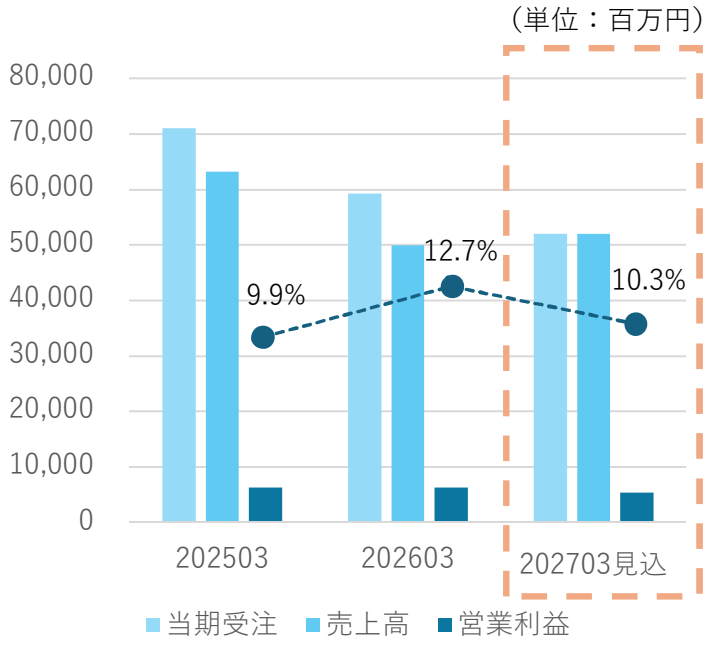
鋼製橋梁： 「新設」の新規入札は減少傾向で足元の競争熾烈。「補修・保全」事業の強化目指す。製作工場で橋梁以外の製品製作で操業度改善も、売上は当期受注・当期売上になる物件少なく期初想定には届かず。利益は設計変更獲得で期初想定を上回る見通し。次年度以降には「大阪湾岸道路西伸部」製作部分の発注見込む

建築鉄骨： 首都圏再開発の大型案件は端境期ながら大阪IR関連など関西の施工物件でカバー。関西案件は工期の長い物件多く、当期中の追加獲得には至らず。首都圏計画物件の発注は来期以降順次再開の見通し

（単位：百万円）

	202503	202603	202703 中間	202703 当初見込	**202703 修正見込**	増減 26-修正見込
期首受注残	87,561	95,372	104,794			+9,422 +9.9%
当期受注	70,983	59,301	24,112	52,000	**52,000** -	-7,301 -12.3%
期末受注残	95,372	104,794	104,298	101,294	**104,794** +3,500	- -
売上高	63,172	49,879	24,609	55,500	**52,000** -3,500	+2,121 +4.3%
営業利益	6,274	6,320	4,207	4,400	**5,350** +950	-970 -15.3%
営業利益率	9.9%	12.7%	17.1%	7.9%	**10.3%** +2.4pp	-2.4pp

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません ※修正見込欄の増減は当初見込みとの比較によります



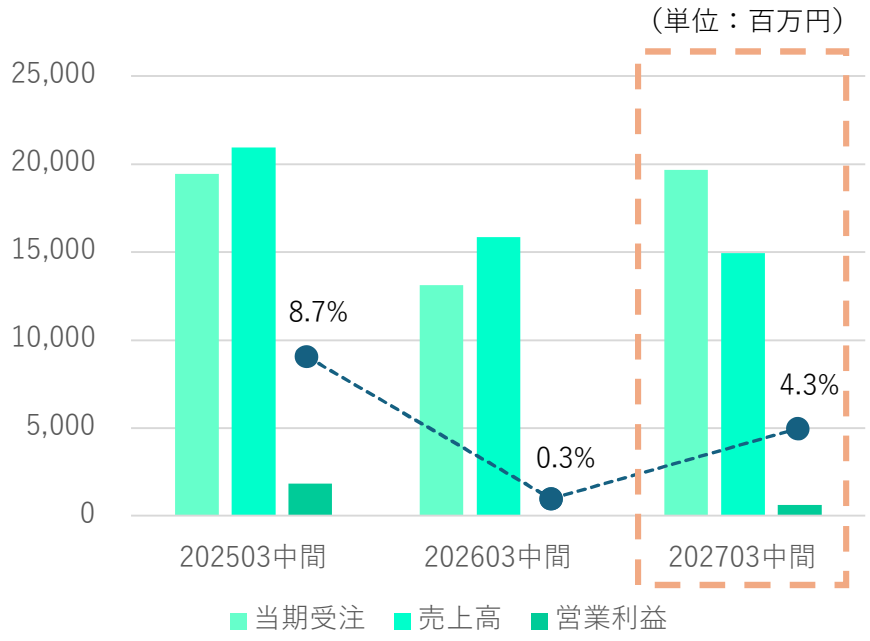
2027年3月期【中間期】②土木セグメント

近年市場を牽引していた高速道路会社の発注減の影響大きい。「更新」など既存物件の変更に予算を取られ新規の発注に回らずか。新規発注少なく厳しい市場環境続くが、既存物件にかかる随意契約で大型床版取替工事を獲得し受注は前期比で大幅増。特に更新事業の期首手持が少なかったことで売上は前期比減。中間期までに設計変更獲得で営業利益は1Qの損失12億から大きく改善

（単位：百万円）

	202503 中間	202603 中間	**202703 中間**	増減 (26中-27中)
期首受注残	45,184	50,700	**52,064**	+1,364 +2.7%
当期受注	19,454	13,110	**19,662**	+6,551 +50.0%
期末受注残	43,686	47,947	**56,781**	+8,834 +18.4
売上高	20,952	15,863	**14,945**	-917 -5.8%
営業利益	1,828	48	**640**	+592 +1,218.9%
営業利益率	8.7%	0.3%	**4.3%**	4.0pp

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません



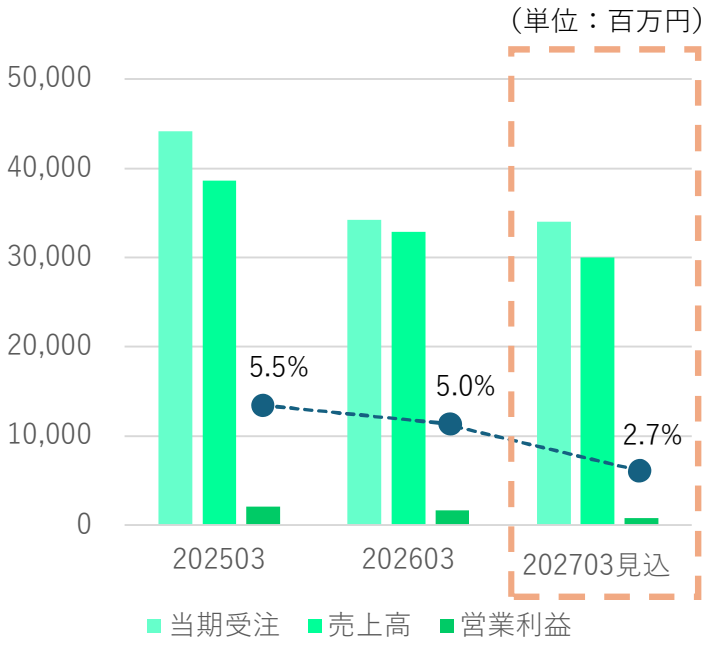
2027年3月期【期末見込】②土木セグメント

「新設」「更新」の新規入札案件は減少の見通しで受注競争は一層激化だが、中間期までに大型更新工事ほか受注。
前期からの繰越工事の減少や更新物件はじめ物件の期中進捗が想定ほど伸びない見通しで売上見込み減。
進捗低下で設計変更獲得時期の見通しも難しくなり、営業利益ともに期末見込を下方修正。前期比で減収減益へ

（単位：百万円）

	202503	202603	202703 中間	202703 当初見込	**202703 修正見込**	増減 26-修正見込
期首受注残	45,184	50,700	52,064			+1,364 +2.7%
当期受注	44,137	34,283	19,662	34,000	**34,000** -	-283 -0.8%
期末受注残	50,700	52,064	56,781	53,064	**56,064** +3,000	+4,000 +7.7%
売上高	38,622	32,918	14,945	33,000	**30,000** -3,000	-2,918 -8.9%
営業利益	2,106	1,654	640	1,800	**800** -1,000	-854 -51.6%
営業利益率	5.5%	5.0%	4.3%	5.5%	**2.7%** -2.8pp	-2.3pp

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません



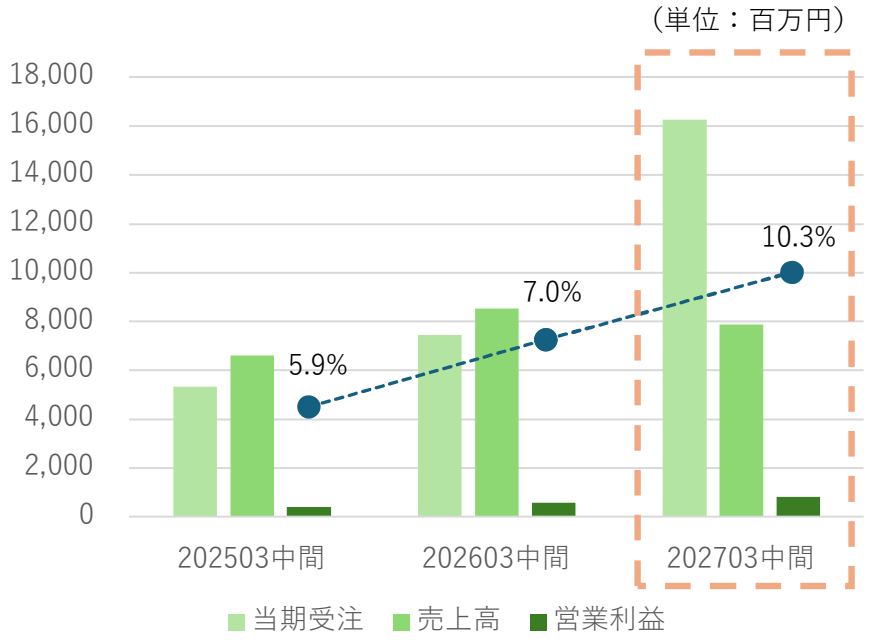
2027年3月期【中間期】③建築セグメント

受注好調。前期に先行して設計部分を受注していた物件で施工部分も継続受注。既に年度受注量に迫る勢い。
手持ち工事における大型物件の割合増加傾向。新規受注工事の工程が本格化せず売上高は前期比減だが、
特に竣工近い大型物件で想定以上の原価低減を実現し利益増

（単位：百万円）

	202503 中間	202603 中間	**202703 中間**	増減 (26中-27中)
期首受注残	17,862	17,788	**17,127**	-661 -3.7%
当期受注	5,332	7,451	**16,254**	+8,803 +118.1%
期末受注残	16,584	16,713	**25,506**	+8,792 +52.6%
売上高	6,610	8,525	**7,875**	-650 -7.6%
営業利益	393	598	**811**	+213 +35.6%
営業利益率	5.9%	7.0%	**10.3%**	3.3pp

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません



2027年3月期【期末見込】③建築セグメント

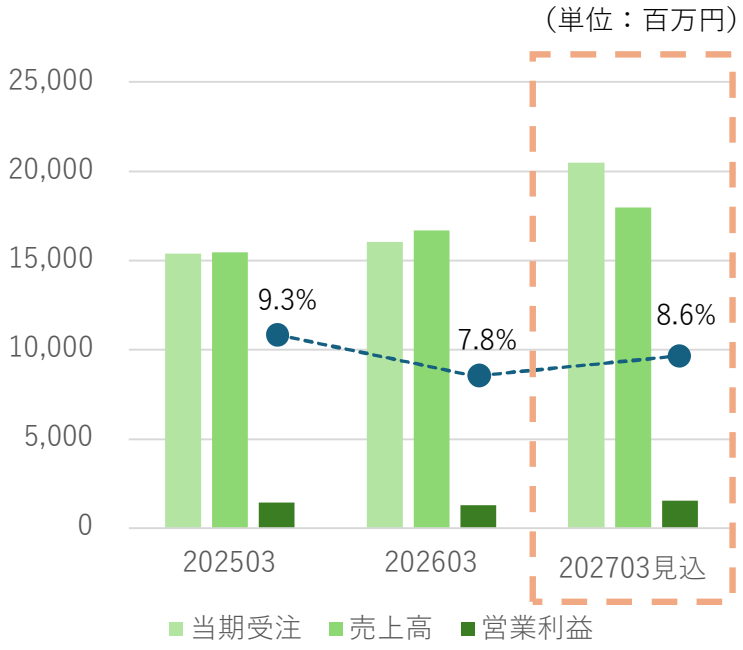
EC拡大や物流倉庫の効率化・機能性向上、老朽化に伴う立替需要などで引き合い変わらず多い。上半期の受注好調で手持物件は既に高い水準にある。下半期の受注は採算性を慎重に判断。新規受注物件が期中に本格稼働に至らず、通期で売上は減だが、持分法適用会社である佐藤工業とのJV工事も採算性が改善して竣工、営業利益は増加し利益率も10%台に到達などで利益見込を上方修正

（単位：百万円）

	202503	202603	202703 中間	202703 当初見込	**202703 修正見込**	増減 26-修正見込
期首受注残	17,862	17,788	17,127			-661 -3.7%
当期受注	15,398	16,042	16,254	20,500	**20,500** -	+4,458 +27.8%
期末受注残	17,788	17,127	25,506	18,127	**19,627** **+1,500**	+2,500 +14.6%
売上高	15,473	16,703	7,875	19,500	**18,000** -1,500	+1,297 7.8%
営業利益	1,444	1,308	811	1,200	**1,550** +350	+242 +18.5%
営業利益率	9.3%	7.8%	10.3%	6.2%	**8.6%** +2.4pp	+0.8pp

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

（単位：百万円）



2027年3月期【中間期】④ソリューションセグメント

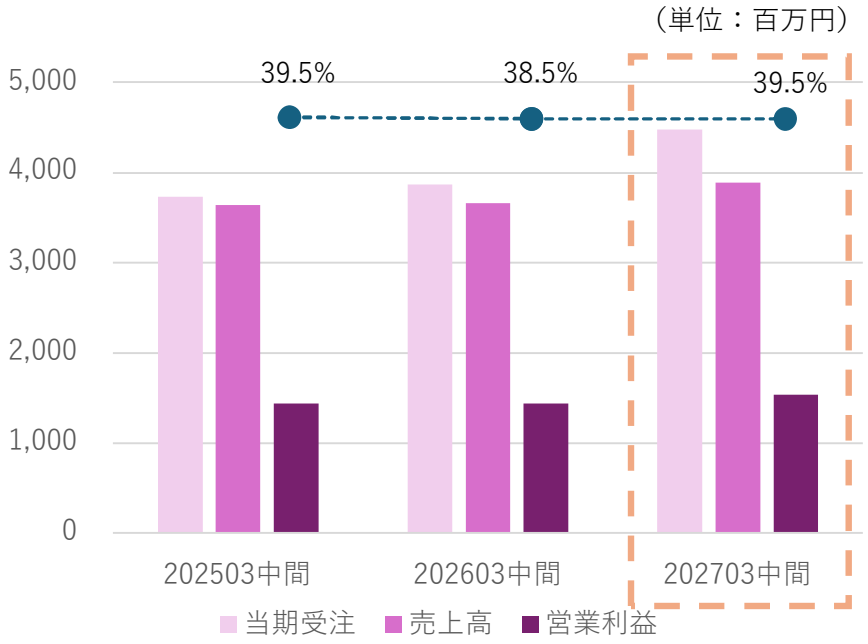
ソフトウェア： 橋梁市場減速を受け設計受託業務は苦戦。自社製品3次元CADシステムも契約本数見直しなど影響受けるが新規開拓順調で受注純増。情報共有クラウドサービスが特に地方自治体で導入進む。防衛省からシステム開発案件を複数受注。売上高、営業利益ともに前期比を上回る

ロボット　　： 直販・代理店とも受注前期比増。売上高・営業利益とも前期比増

（単位：百万円）

	202503 中間	202603 中間	**202703 中間**	増減 (26中-27中)
期首受注残	3,498	3,603	**3,926**	+323 +9.0%
当期受注	3,733	3,872	**4,479**	+606 +15.7%
期末受注残	3,588	3,809	**4,516**	+707 +18.6
売上高	3,643	3,666	**3,889**	+222 +6.1%
営業利益	1,440	1,411	**1,538**	+127 +9.0%
営業利益率	39.5%	38.5%	**39.5%**	1.0pp

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません



2027年3月期【期末見込】④ソリューションセグメント

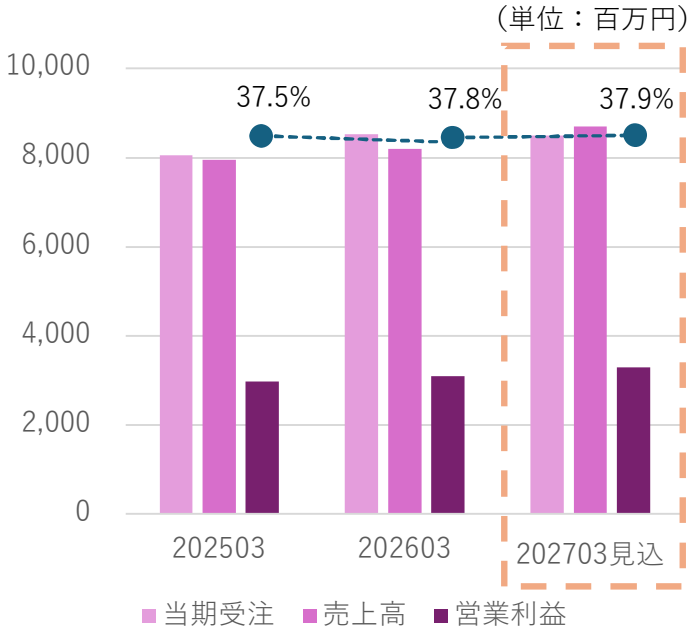
ソフトウェア： 国交省が進める2次元図面・3次元モデル連動は追い風。3次元CADシステムは河川・砂防向け機能強化。さらに道路、地下埋設物、一般建築市場へ展開目指す。防衛省システム開発受注は新市場開拓にも寄与

ロボット　　： DX、フィジカルAIなど通じ実用化に向けた取り組み進む。国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のムーンショット型研究開発事業「目標3」に参画決定。時流を捉え製品の磨き上げに注力し、引き続き黒字化目指す

（単位：百万円）

	202503	202603	202703 中間	202703 当初見込	**202703 修正見込**	増減 26-修正見込
期首受注残	3,498	3,603	3,926			+323 +9.0%
当期受注	8,053	8,520	4,479	8,500	**8,500** -	-20 -0.2%
期末受注残	3,603	3,926	4,516	3,726	**3,726** -	-200 -5.1%
売上高	7,949	8,197	3,889	8,700	**8,700** -	+503 +6.1%
営業利益	2,982	3,098	1,538	3,000	**3,300** +300	+202 +6.5%
営業利益率	37.5%	37.8%	39.5%	34.5%	**37.9%** +3.4pp	+0.1pp

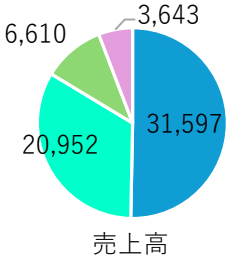
※セグメント間の取引は相殺消去しておりません



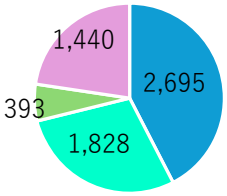
2027年3月期【中間期】セグメント別 中間期収益の推移

（単位：百万円）

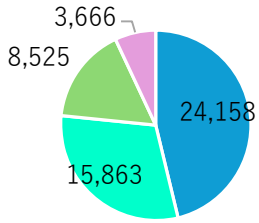
	2025年3月期 中間期			2026年3月期 中間期			2027年3月期 中間期		
	売上高	営業利益	営利率	売上高	営業利益	営利率	売上高	営業利益	営利率
鉄　構	31,597	2,695	8.5%	24,158	2,975	12.3%	**24,609** +1.9%	**4,207** **+41.4%**	**17.1%** **+4.8pp**
土　木	20,952	1,828	8.7%	15,863	48	0.3%	**14,945** **-5.8%**	**640** **+1,218.9%**	**4.3%** **+4.0pp**
建　築	6,610	393	5.9%	8,525	598	7.0%	**7,875** **-7.6%**	**811** **+35.6%**	**10.3%** **+3.3pp**
ソリューション	3,643	1,440	39.5%	3,666	1,411	38.5%	**3,889** **+6.1%**	**1,538** **+9.0%**	**39.5%** **+1.0pp**



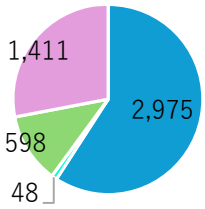
売上高



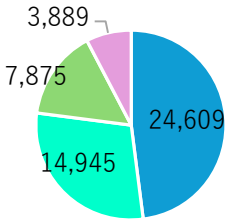
営業利益



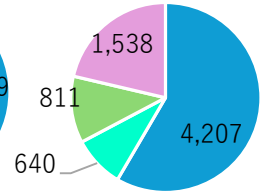
売上高



営業利益



売上高



営業利益

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2027年3月期【期末見込】期末業績見込み

11/10付で期末見込みを修正発表。鉄構・土木セグで工場操業や現場進捗伸びず売上高を下方修正も、
当初想定を上回る設計変更獲得や原価低減がこれを補う見通し。建築セグ・ソリューションセグは若干上振れで
営業利益は微増見込み。為替要因で持分法投資利益が上振れ、経常利益および親会社利益を上方修正

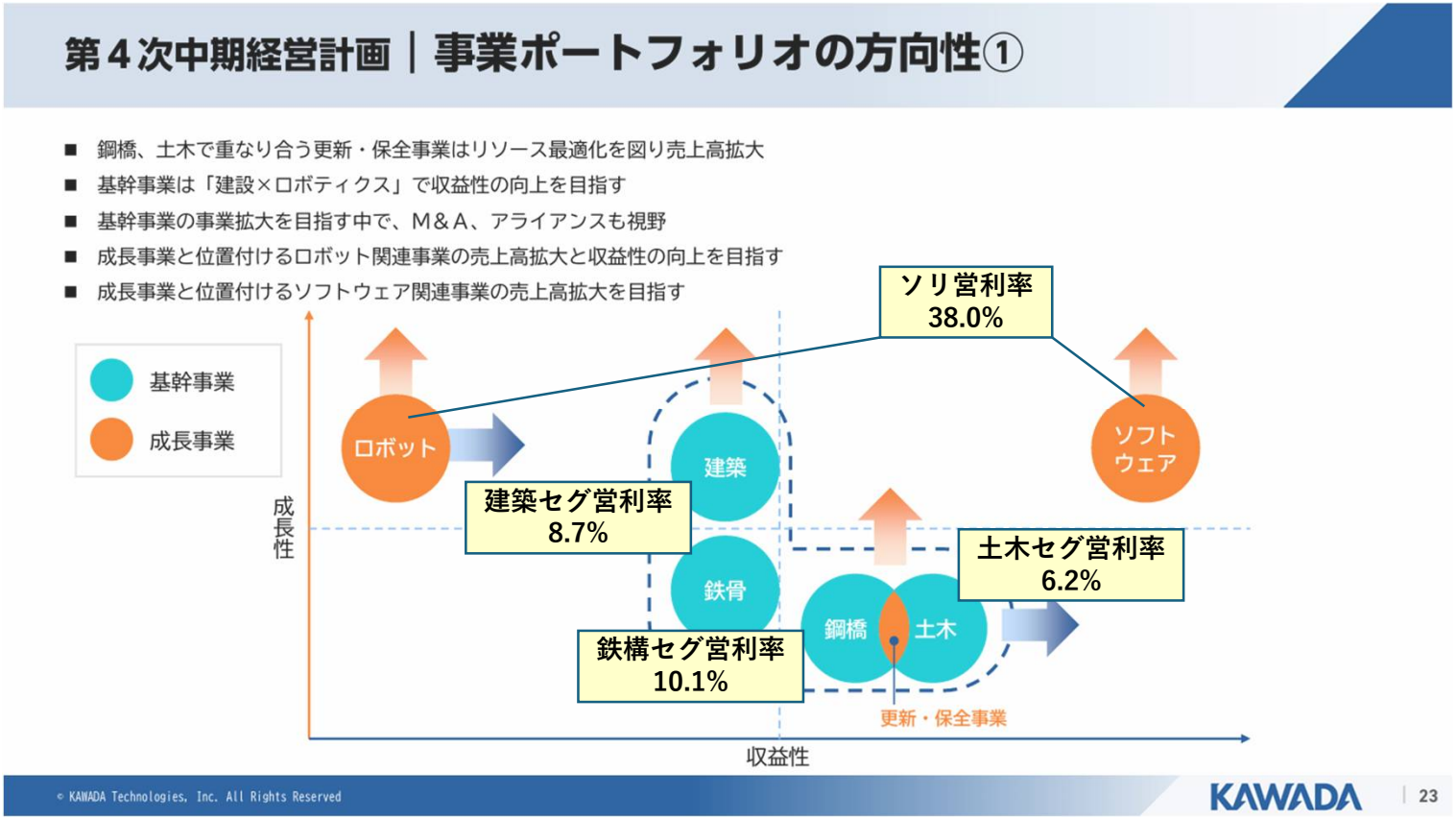
（単位：百万円）

	2025年 3月期	2026年 3月期	2027年 3月期 中間期	2027年 3月期 当初見込	**2027年 3月期 修正見込**	26-27 修正見込	(参考) 修正見込に 対する中間進捗
売上高	132,905	115,025	54,946	125,000	**117,000** -8,000	+1,974 +1.7%	47.0%
営業利益	9,684	8,598	5,231	7,200	**7,300** +100	-1,298 -15.1%	71.7%
経常利益	12,616	11,055	6,776	9,500	**10,600** +1,100	-455 -4.1%	63.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,107	8,782	5,055	7,100	**8,000** +900	-782 -8.9%	63.2%
1株当たり 当期純利益（円） ※	214.32	168.03	98.67	135.71	**159.03** +23.32	-9.0 -5.4%	62.0%

※ 2026/4/1株式分割が表示期間期首にあったものとして算定しています

（参考）第4次中期経営計画 事業ポートフォリオの方向性

弊社グループは4つのセグメントを擁する。これからもグループ理念「安心で快適な生活環境の創造」に多方面から貢献できる企業であり続けるため、この構造を基本的に維持しながら、それぞれ売上拡大・収益性向上に努める。我々の他にない強みである「建設×ロボティクス」に加え、M&Aやアライアンスも視野。持分法を適用する佐藤工業株式会社とも互いの強みを掛け合わせ強靭な事業の構築を目指す。最適な資本関係については引き続き慎重に検討



※2026/5/12発表の
第4次中計資料より抜粋

※セグメント営業利益率は
第3次中計期間の平均による

3. 株主還元の見込みについて

株主還元の見通し

期末業績見込みの見直しに併せ年間配当金額を上方修正。中間21.0円、期末27.0円で年間48.0円へ
当年度は30億円の自己株取得を実施しており、総還元性向は67.7%

■株主還元方針（2026年4月1日より）

- 企業価値向上とともに株主の皆様への利益還元を最重要施策の一つとして認識
- 親会社株主に帰属する当期純利益から非経常的な特殊要因による損益を除外し、連結配当性向30%程度を目途に安定的な配当を継続して実施することを基本方針
- **第4次中計期間中、総還元性向を50%目途かつ同期間の1株当たり年間配当金の下限を35円**

Q.「非経常的な特殊要因による損益」とは？

A. 通常の事業活動から生じたものではない、特に将来に亘りキャッシュフローの裏付けの期待できない会計上の損益

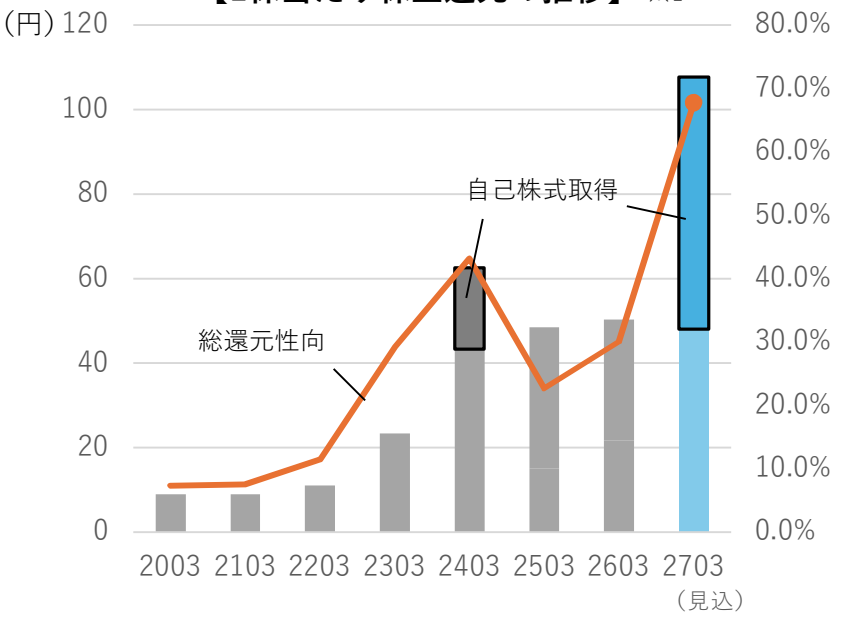
※必ずしも、P/L「特別区分」に計上された損益を意味しません

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期 修正見込
1株当たり当期純利益 ※1	144.69円	214.32	168.03	**159.03円**
1株当たり配当 ※1	43.7円	48.3円（中間15.0）	50.3円（中間21.6）	**48.0円（中間21.0）**
配当性向	30.2%	22.6%※2	30.0%	**30.2%**
自己株式取得	1,000百万円	-	-	**3,000百万円**
総還元性向	43.2%	22.6% ※2	30.0%	**67.7%**

※1 2024年4月1日、2026年4月1日株式分割を表示期間期首に実施したものとして計算しています

※2 配当方針に基づき「佐藤工業による持分法新規適用に伴う時価評価差額」および「繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴う法人税等調整額」を影響を除く場合、「29.6%」となります

【1株当たり株主還元の推移】 ※1



2027年3月期末見込 株主還元の取り組み

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最重要施策の一つとして認識しております
今後も、企業価値の向上と安定的な株主還元の両立を目指して参ります

■最近の取り組み

2023年5～9月	10億円の自己株式取得
2024年4月	普通株式1：3の割合で株式分割
2024年5月	第3次中期経営計画中の年間配当金の下限を90円に設定
2024年6月	中間配当制度を導入
2025年3月	自己株式400,000株を消却
2026年4月	**普通株式 1：3 の割合で株式分割を実施**
2026年4～5月	**15億円の自己株式取得を実施**
2026年6～8月	**15億円の自己株式取得を追加実施**

当年度の取り組み

プレスリリースのご紹介

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)推進のムーンショット型研究開発事業に参画

https://www.kawada.jp/news/detail/20260819_moonshot.html



川田テクノロジーズとカワダロボティクスは、国が主導するムーンショット型研究開発事業における目標3「2050年までに、AIとロボットの共進化により自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現」に、課題推進者として参画します。

MOONSHOT
RESEARCH & DEVELOPMENT PROGRAM

HighlandersとAIによる建設現場の可視化を実現する4足歩行ロボットシステムを共同開発

https://www.kawada.co.jp/topics/pr_20261110_highlanders.html



多目的実験センターでの「HLQ EDGE」

川田工業は、Highlanders様と共同で、4足歩行ロボットと現場可視化AIシステムを組み合わせ、建設現場の状況を自動的に収集・分析するシステムの共同開発を進めています。

川田工業の多目的実験センター内に設置された実寸大の橋梁模型を使って、危険個所の抽出、資材管理、施工進捗把握などの機能開発を進め、2027年度の現場導入を目指しています。

東京愛らんどシャトルにAW139型ヘリが新たに就航

https://www.tohoair.co.jp/news/aw139ja639b.html

東邦航空が運航を受託し伊豆諸島間を結ぶ日本で唯一の定期旅客ヘリコプター路線「東京愛らんどシャトル」が、2機目の大型ヘリコプター「AW139」を導入しました。

より安全で安定した航空輸送サービスを提供することで、地域社会の発展と利便性向上に一層貢献して参ります。



「南砺かわだの森」で植林活動を実施

https://www.kawada.co.jp/topics/pr_20261109_nantokawadanomori.html

川田工業は、環境保全活動の一環として、富山県南砺市内の山林で植林活動を実施しました。

二酸化炭素の吸収や生態系の保全、地域との環境コミュニケーションの向上を目的とする「企業の森づくり活動」で、植林地を「南砺かわだの森」と名付け、継続的な植林を通じて森づくりに取り組んで参ります。



プレスリリースのご紹介



雑誌「FRaU」に掲載

https://www.kawada.jp/news/detail/202609_frau-toyama.html

講談社の地域特集ムック「FRaU S-TRIP」シリーズにて、川田グループが富山発祥の企業として紹介されました。

タイアップ記事「富山から世界へ、未来に貢献する地元企業／川田グループ"ものづくりにかけた想い"」で、創業から100年以上に亘り、橋梁、建築、ロボットなどの分野で社会を支えてきた川田グループの歩みを、代表的な建造物や技術とともに紹介しています。

テレビ東京「円卓コンフィデンシャル」に出演

https://www.kawada.jp/news/detail/20260718_tv-tokyo_confidential.html

弊社社長の川田忠裕が、テレビ東京の経済番組「円卓コンフィデンシャル ～他社との遭遇～」に出演し、フィジカルAIをテーマに千葉工業大学未来ロボット技術研究センターfuRo所長の古田貴之先生、三菱電機様、アイリスオーヤマ様、出演者の皆様とともに円卓を囲みました。





「Los Angeles Times」に掲載

https://www.kawada.jp/news/detail/20260826_latimes.html

米国の新聞「Los Angeles Times」の「JAPAN SPECIAL REPORT」に、川田グループを紹介する記事「Kawada Group – Forging the Next Century」が掲載されました。刀鍛冶を起源とし、1世紀を超える歴史の中でで幅広い分野へ事業を展開してきた川田グループの歩みを紹介しています。


Forging the Next Century

Kawada Group is combining more than a century of engineering expertise with advanced robotics and infrastructure innovation, positioning itself for growth both in Japan and overseas.

「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に初選定

https://www.kawada.jp/news/detail/20260721_ftse.html

FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

弊社は、グローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが構築するESG投資の株価指数「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に初めて選定されました。

これは、弊社グループのサステナビリティに領域における持続的な活動や情報開示姿勢が、国際的な基準において相対的に高く評価された結果と認識しています。

（ご参考）主な業績指標の推移

（単位：百万円）

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	**2026年3月期**	**2027年3月期中間**
売上高	103,760	118,086	129,127	132,905	115,025	**54,946**
営業利益	6,412	5,025	8,734	9,684	8,598	**5,231**
経常利益	7,689	6,298	10,538	12,616	11,055	**6,776**
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	5,176	4,231	7,541	11,107	8,782	**5,055**
1株当たり当期(中間)純利益 ※	97.51円	79.98円	144.69円	214.32円	168.03円	**98.67円**
自己資本当期純利益率	7.6%	5.8%	9.6%	12.8%	9.2%	**5.1%**
総資産経常利益率	5.5%	4.3%	6.5%	7.7%	6.7%	**4.2%**
売上高営業利益率	6.2%	4.3%	6.8%	7.3%	7.5%	**9.5%**
総資産	133,337	162,158	160,238	165,511	162,986	**156,551**
純資産	71,921	76,697	82,363	91,569	99,510	**100,632**
自己資本比率	53.2%	46.6%	51.1%	55.0%	60.7%	**63.9%**
1株当たり純資産 ※	1,336.54円	1,429.38円	1,584.85円	1,746.07円	1,891.42円	**1,988.74円**
営業活動によるキャッシュフロー	20,391	-9,673	13,320	9,839	15,160	**8,028**
投資活動によるキャッシュフロー	-1,948	-1,504	-2,553	-2,981	-1,828	**-1,491**
財務活動によるキャッシュフロー	-15,811	12,213	-10,337	-8,659	-10,134	**-4,285**
1株あたり年間配当金※	11.11円	23.33円	43.67円	48.33円 (中15.00 末33.33)	50.33円 (中21.67 末28.67)	**48.00円見込** **(中21.00 末27円)**
総還元性向	11.4%	29.2%	43.2%	22.6%	30.0%	**67.7%見込**

※ 2024年4月1日及び2026年4月1日の株式分割を表示期間期首に実施したものとして計算しています

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性について保証するものではありません。また、本資料に記載される当社グループの計画、見積、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断または考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、経済情勢、業界の市場動向、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

- お問合せ先 -

KAWADA 川田テクノロジーズ株式会社

経営管理部 IR担当

ir.kti@kawada.jp